

第2章

東京島しょ地域の概況

第2章 東京島しょ地域の概況

1 東京島しょ地域の概況

(1) 人口・世帯・面積

東京島しょ地域は伊豆諸島と小笠原諸島で構成され、このうち民間人が暮らす有人離島は伊豆諸島9島、小笠原諸島2島、合計11島である。

人口は、伊豆諸島計が23,469人、小笠原諸島計は3,022人、合計26,491人である。世帯数は、伊豆諸島計が11,908世帯、小笠原諸島計が1,517世帯、合計13,425世帯となっている。

面積は、伊豆諸島計が290.52km²、小笠原諸島計が68.58km²、合計359.10 km²となっている。11島のうち最も大きい島は大島で人口7,884人、世帯数3,947世帯、面積90.73km²となっている。一方、最も人口が少ない島は青ヶ島で人口178人、世帯数125世帯、最も面積が小さい島については、式根島の3.67km²となっている。

東京島しょ地域の総人口と高齢者人口並びに高齢化率をみると、人口は2000年から2005年にかけて増加しているものの、これは三宅村の全島避難と帰島の影響によるもので、総じて減少傾向にあるといえる。一方、高齢者人口・高齢化率は年々高まる傾向にあり、2015年には高齢化率32.5%となっている。

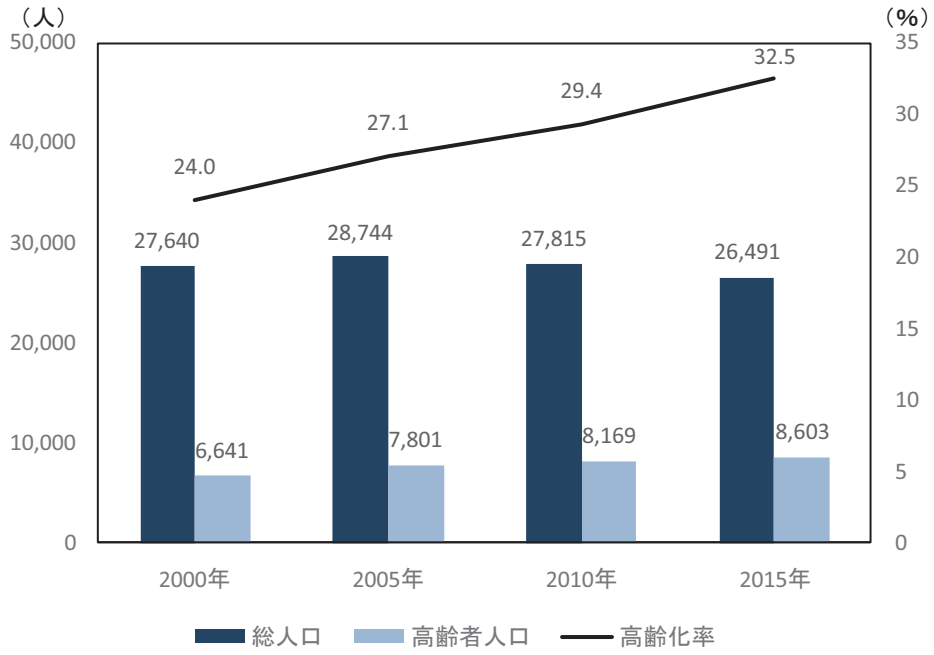
図表4 東京島しょ地域の人口・世帯・面積

地域名	島名	町村名	人口(人)	世帯数(世帯)	面積(km ²)
伊豆諸島	大島	大島町	7,884	3,947	90.73
	利島	利島村	337	194	4.12
	新島	新島村	2,230	999	22.97
	式根島	新島村	519	262	3.67
	神津島	神津島村	1,891	791	18.24
	三宅島	三宅村	2,482	1,483	55.21
	御蔵島	御蔵島村	335	194	20.51
	八丈島	八丈町	7,613	3,913	69.11
	青ヶ島	青ヶ島村	178	125	5.96
	小計		23,469	11,908	290.52
小笠原諸島	父島	小笠原村	2,089	1,119	23.45
	母島	小笠原村	461	266	19.88
	小計		3,022	1,517	68.58
合計		26,491	13,425	359.10	

注：人口・世帯は総務省の国勢調査（2015年10月1日）、面積は、国土交通省国土地理院の全国都道府県市区町村別面積調（2015年10月1日）等に基づく数値。

出典：離島統計年報2016（公益財団法人日本離島センター）

図表5 東京島しょ地域の総人口・高齢者人口・高齢化率の推移

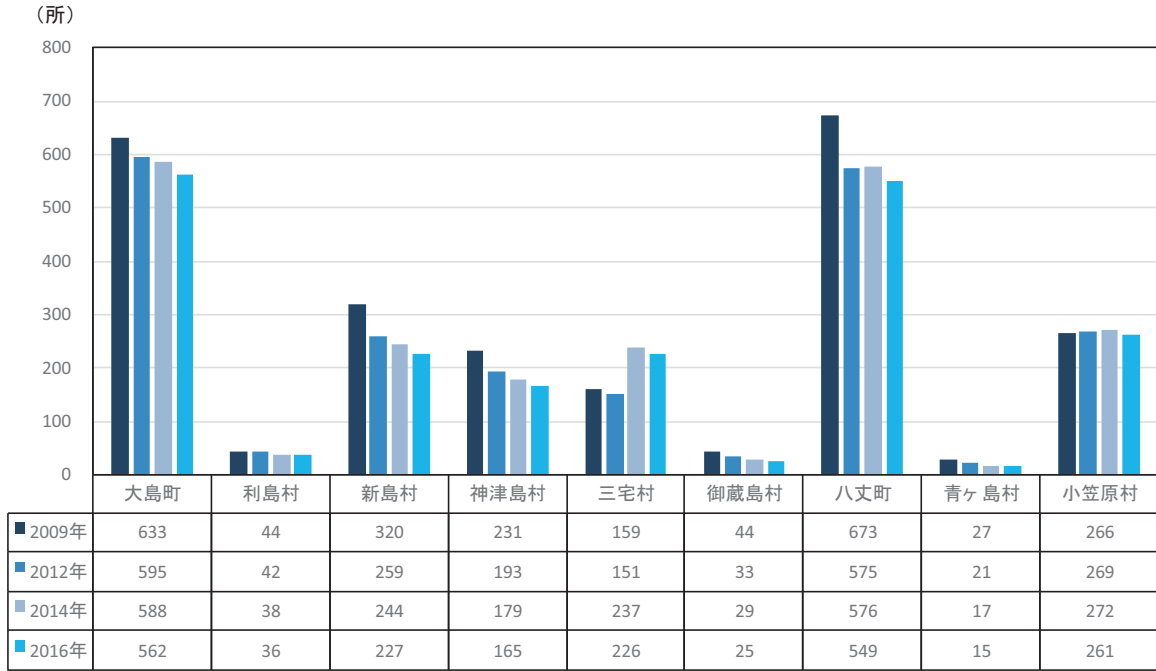


出典：国勢調査（各年10月1日現在）

(2) 東京島しょ地域の産業構造

東京島しょ地域の事業所数は、概ね減少傾向にある。業種の内訳は「宿泊業、飲食サービス業」が多く、次いで「卸売業、小売業」などの順となっており、農林水産業や製造業などよりも観光に関連する事業者が多くなっている。

図表6 事業所数の推移



出典：経済センサス-基礎調査（2009年、2014年）、活動調査（2012年、2016年）

図表7 事業所数の業種別内訳

	農林漁業	鉱業、採石業、砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業（他に分類されないもの）
大島町	1	1	73	24	1	0	14	139	6	8	10	146	45	11	26	9	28
利島村	1	0	6	3	1	0	1	7	0	0	0	9	4	0	1	1	2
新島村	0	0	26	12	1	0	12	50	1	0	1	87	14	2	4	5	12
神津島村	0	0	23	8	1	0	5	41	1	0	2	53	20	2	3	1	5
三宅村	1	0	37	13	1	0	12	40	2	5	1	62	26	2	5	6	13
御蔵島村	0	0	2	0	0	0	5	5	0	0	0	7	5	0	0	1	0
八丈町	1	0	46	31	1	1	22	17	4	20	13	170	57	12	25	8	21
青ヶ島村	0	0	4	1	1	0	1	1	0	0	0	5	0	0	0	1	1
小笠原村	4	0	27	12	2	1	9	33	2	17	11	99	24	1	6	1	12

出典：経済センサス-活動調査（2016年）

(3) 東京島しょ地域へのアクセスと旅客数

東京島しょ地域への移動方法は、羽田空港又は調布飛行場から航空路線で向かうか、竹芝客船ターミナル又は熱海市・下田市から客船で向かうかのいずれかとなる。2017年度において航空路線で東京島しょ地域を訪れた人の数（総数）は約13万人、客船では約40万人、合計約53万人となっている。

航空路線の旅客数の内訳は、東京（羽田）－八丈島線が最も多く約87,000人、また調布飛行場発着便の中では調布－新島線の約15,000人が最も多くなっている。一方、客船による上陸人数の内訳は最も近い位置にある大島が最も多く、2017年で約22万人と全体の半数を超えている。

しかし、距離も移動時間も最も遠い小笠原諸島において2017年の上陸者数が約77,000人と大島に次いで多いことから、距離を補う魅力があれば、遠方であっても集客可能であることを示している。

図表8 2017年度国内定期航空路線別、区間別、運送実績

	航空路線名	運行会社	路線	旅客数（人）
1	東京（羽田）－八丈島線	全日本空輸株式会社	東京→八丈島○	87,227
			八丈島→東京	96,134
2	大島－調布線	新中央航空株式会社	大島→調布	9,645
			調布→大島○	8,553
3	大島－利島線	東邦航空株式会社	大島→利島	1,078
			利島→大島	1,315
4	三宅島－大島線	東邦航空株式会社	三宅島→大島	1,463
			大島→三宅島	730
5	三宅島－御蔵島線	東邦航空株式会社	三宅島→御蔵島	1,663
			御蔵島→三宅島	2,120
6	八丈島－青ヶ島線	東邦航空株式会社	八丈島→青ヶ島	2,743
			青ヶ島→八丈島	2,716
7	八丈島－御蔵島線	東邦航空株式会社	八丈島→御蔵島	1,310
			御蔵島→八丈島	1,266
8	調布－三宅島線	新中央航空株式会社	調布→三宅島○	9,718
			三宅島→調布	16,148
9	調布－神津島線	新中央航空株式会社	調布→神津島○	10,781
			神津島→調布	12,547
10	新島－調布線	新中央航空株式会社	新島→調布	18,251
			調布→新島○	15,438
再掲	東京・調布→島しょ地域（○印の計）			131,717

出典：航空輸送統計調査（国土交通省）

図表9 船客乗降人員

単位:人

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
大島	乗込	164,874	181,897	205,963	204,157	208,611	226,025	231,078
	上陸	162,067	186,893	207,136	174,765	211,471	232,506	221,722
	総数	326,941	368,790	413,099	378,922	420,082	458,531	452,800
利島	乗込	5,456	6,361	6,899	7,526	7,672	7,041	7,634
	上陸	5,638	6,565	6,978	7,455	7,718	6,926	7,389
	総数	11,094	12,926	13,877	14,981	15,390	13,967	15,023
新島	乗込	33,339	24,508	25,811	24,477	23,364	25,917	26,601
	上陸	36,335	26,590	28,491	27,152	26,266	28,877	30,280
	総数	69,674	51,098	54,302	51,629	49,630	54,794	56,881
式根島	乗込	-	-	-	-	-	-	-
	上陸	-	-	-	-	-	-	-
	総数	-	-	-	-	-	-	-
神津島	乗込	14,848	20,914	18,393	19,816	15,682	23,323	22,028
	上陸	15,625	22,996	18,321	21,031	16,421	23,554	23,602
	総数	30,473	43,910	36,714	40,847	32,103	46,877	45,630
三宅島	乗込	17,195	14,407	15,608	12,492	9,346	9,449	9,079
	上陸	18,440	16,451	17,478	15,085	11,589	11,614	11,199
	総数	35,635	30,858	33,086	27,577	20,935	21,063	20,278
御蔵島	乗込	5,744	7,145	12,571	6,265	7,299	7,280	7,342
	上陸	6,428	6,839	14,048	7,086	7,999	8,264	8,040
	総数	12,172	13,984	26,619	13,351	15,298	15,544	15,382
八丈島	乗込	9,943	9,669	8,453	8,616	10,681	13,044	12,370
	上陸	15,847	15,790	14,799	15,509	18,554	21,670	22,015
	総数	25,790	25,459	23,252	24,125	29,235	34,714	34,385
青ヶ島	乗込	576	583	788	878	995	1,291	1,238
	上陸	515	555	771	871	1,035	1,326	1,214
	総数	1,091	1,138	1,559	1,749	2,030	2,617	2,452
小笠原	乗込	71,075	100,725	83,998	79,082	70,361	70,999	75,262
	上陸	71,442	100,746	83,771	77,535	70,338	70,857	76,643
	総数	142,517	201,471	167,769	156,617	140,699	141,856	151,905
総数	乗込	346,724	323,050	378,484	363,309	354,011	384,369	392,632
	上陸	354,791	332,337	391,793	346,489	371,391	405,594	402,104
	総数	701,515	655,387	770,277	709,798	725,402	789,963	794,736

出典：東京港の港湾統計（東京都）

図表10 東京島しょ地域へのアクセス方法



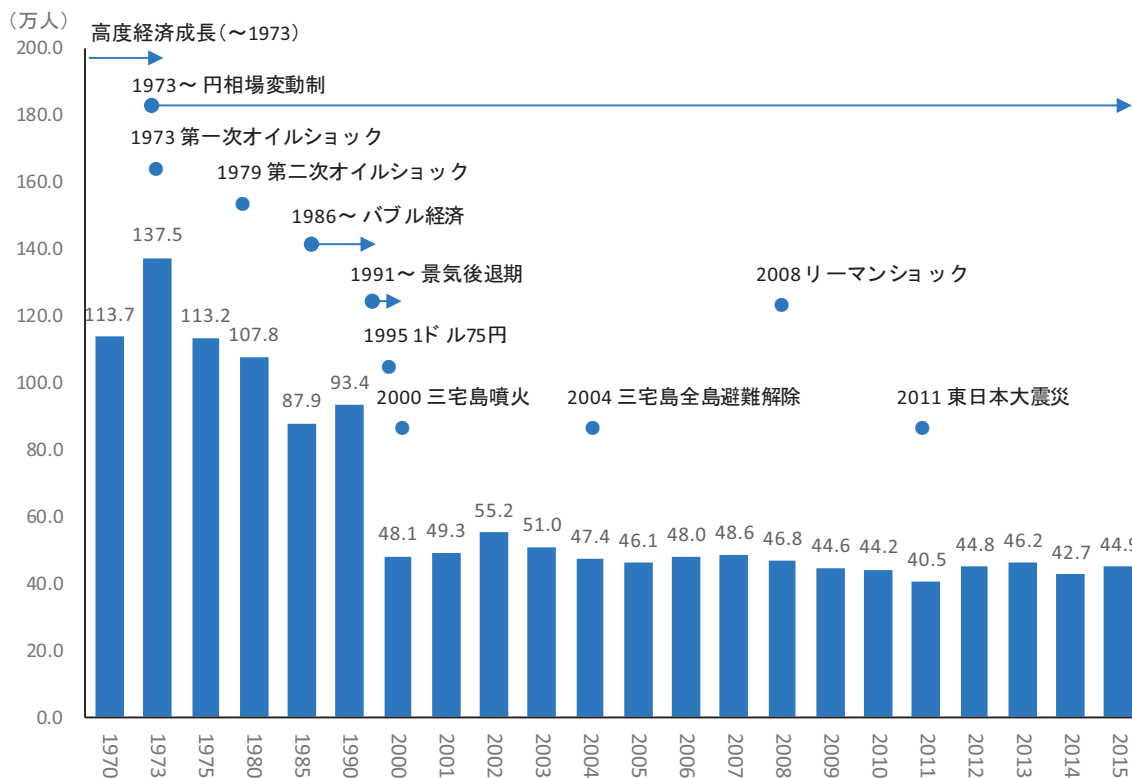
出典：島へのアクセス（公益財団法人東京都島しょ振興公社ホームページ）
 (<https://www.tokyoislands-net.jp/islands/access>)

2 東京島しょ地域の観光客数・宿泊能力

東京島しょ地域の観光客数は、ピーク時である1973年には137万人を超えていたが、近年は45万人前後で推移している。

高度経済成長期は日本全体が豊かになり、娯楽のひとつとして旅行が広く定着していくなかで離島ブームが起り、多くの観光客が訪れた。しかし、オイルショックによる高度経済成長期の終焉や、円の変動相場制への転換による円高により、海外旅行が身近になったことなどから、離島ブームは下火になっていった。またバブル経済の崩壊や地方経済の衰退、さらに三宅島の噴火の影響もあり、2000年以降は多少の増減はあるものの、かつてのような賑わいを回復するまでは至っていない。

図表11 東京島しょ地域の観光客数推移



出典：伊豆諸島・小笠原諸島観光客入込実態調査（東京都）をもとに一部加筆

離島統計年報2016によれば、2014年度の東京島しょ地域の観光客数は、伊豆諸島小計が41.6万人、小笠原諸島小計が3.1万人となり、合計44.7万人と推計される。島別にみると中でも大島と八丈島の観光客数が多い。

最盛期については、伊豆諸島はいずれも6月から8月の夏の期間であるのに対し、小笠原諸島は3月から5月の春の期間となっている。

図表12 東京島しょ地域の観光客数・宿泊能力

地域名			伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島小計	
島名			大島	利島	新島	式根島	神津島	三宅島	御蔵島	八丈島	青ヶ島	9	
2014年度 観光客数	春 2014.3 ~ 2014.5	(千人)	46.6	0.7	9.2	4.9	6.7	8.1	1.3	20.0	0.1	97.6	
	夏 2014.6 ~ 2014.8	(千人)	60.2	2.0	16.9	14.7	17.0	11.0	3.9	27.2	0.1	153.0	
	秋 2014.9 ~ 2014.11	(千人)	40.4	1.0	8.9	5.0	6.9	8.6	2.0	19.0	0.1	91.9	
	冬 2014.12 ~ 2015.2	(千人)	44.2	0.2	5.3	1.1	3.9	6.7	0.1	12.1	0.1	73.7	
	計	(千人)	191.4	3.9	40.3	25.7	34.5	34.4	7.3	78.3	0.4	416.2	
構成比			(%)	42.8	0.9	9.0	5.7	7.7	7.7	1.6	17.5	0.1	93.1

地域名			小笠原諸島	小笠原諸島	小笠原諸島小計	合計	
島名			父島	母島	2	11	
2014年度 観光客数	春 2014.3 ~ 2014.5	(千人)	8.4	2.0	10.4	108.0	
	夏 2014.6 ~ 2014.8	(千人)	8.1	1.8	9.9	162.9	
	秋 2014.9 ~ 2014.11	(千人)	4.5	1.0	5.5	97.4	
	冬 2014.12 ~ 2015.2	(千人)	4.0	1.2	5.2	78.9	
	計	(千人)	25.0	6.0	31.0	447.2	
構成比			(%)	5.6	1.3	6.9	100.0

注：観光客数は、原則として船舶、航空機の利用から集計し掲載した。

出典：離島統計年報2016（公益財団法人日本離島センター）

旅館・ホテルの最盛期宿泊能力は、伊豆諸島小計が50軒、収容人数2,663人、小笠原諸島小計が1軒、収容人数28人となっている。同様に民宿は、伊豆諸島小計が291軒、収容人数6,824人、小笠原諸島が75軒、収容人数1,156人となっている。島ごとにみると、神津島以外の島では全て、民宿の収容能力が旅館・ホテルの収容能力を上回っている。

図表13 東京島しょ地域の観光客数・宿泊能力

地域名			伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島	伊豆諸島小計	
島名			大島	利島	新島	式根島	神津島	三宅島	御蔵島	八丈島	青ヶ島	9	
宿泊能力 (2014年度 最盛期)	軒数	旅館・ホテル (軒)	17	1	3	6	17	2	—	4	—	50	
		民宿 (軒)	48	8	36	32	28	34	14	85	6	291	
	収容能力	旅館・ホテル (人)	1,099	20	201	191	504	82	—	566	—	2,663	
		民宿 (人)	1,470	126	838	883	488	731	225	1,965	98	6,824	
年間宿泊者数(2014.3~2015.2計)			(千人)	165.2	6.6	95.9	76.7	83.4	53.0	14.1	187.6	1.2	683.7

地域名			小笠原諸島	小笠原諸島	小笠原諸島小計	
島名			父島	母島	2	
宿泊能力 (2014年度 最盛期)	軒数	旅館・ホテル (軒)	1	—	1	
		民宿 (軒)	62	13	75	
	収容能力	旅館・ホテル (人)	28	—	28	
		民宿 (人)	980	176	1,156	
年間宿泊者数(2014.3~2015.2計)			(千人)	93.6	9.1	102.7

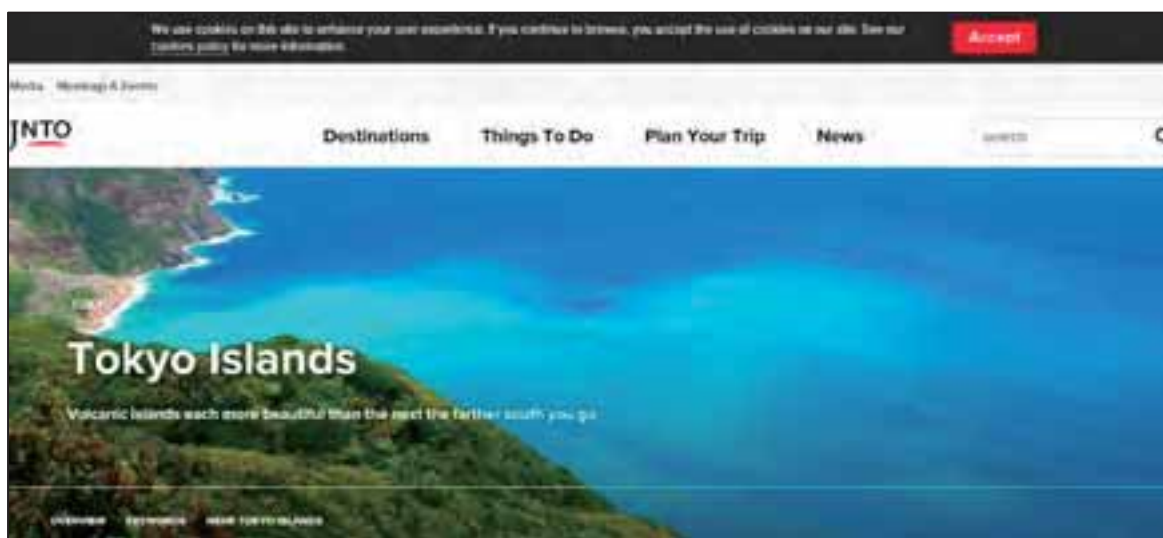
注：宿泊能力は、最盛期の能力とした。年間宿泊者数（2014年3月から2015年2月計）は、島（町村）に泊まった人の延べ宿泊者数。

出典：離島統計年報2016（公益財団法人日本離島センター）

3 東京島しょ地域のインバウンドプロモーション

日本政府観光局（JNTO：Japan National Tourism Organization、正式名称：独立行政法人 国際観光振興機構）は、外国人旅行者の誘致活動を行う政府機関である。主要な市場に海外事務所等を設置し、外国人の訪日旅行のプロモーションやマーケティングを行っている。インバウンド向け外国語サイトでは、都内観光地の1つとして東京島しょ地域の特集ページが製作されており、全ての島について見どころが紹介されている。

図表14 JNTOによる東京島しょ地域のプロモーション



出典：日本政府観光局外国語サイト (<https://www.jnto.go.jp/>) ※下記サイトも同じ。

図表15 JNTOの東京観光特設ページにおける全島紹介ページ



トリップアドバイザー⁵は旅行者の口コミと航空券・宿泊費の価格比較を中心としたオンラインサービスを提供している。46カ国、28言語に対応し、世界最大級の旅行コミュニティサイトである。

東京島しょ地域の観光地やグルメ情報の口コミ情報も、5段階の採点とともに紹介されている。しかし、あくまで旅行者が自主的に投稿する仕組みであり、観光地側が意図的に情報発信する仕組みではないため、口コミ情報量には差がある。

なお、売上高において世界最大の旅行会社といわれるのが、オンラインを専門とするエクスペディア (Expedia, Inc.) である。ホームページには現地ツアーのページが設けられているものの、こちらも東京島しょ地域の現地情報は掲載されていない (宿の情報のみ検索可能)。

図表16 トリップアドバイザーにおける東京島しょ地域の情報掲載例



出典：トリップアドバイザー旅行ガイドのページから小笠原村のページ (<https://www.tripadvisor.jp/>)

5 トリップアドバイザーは、ホテル等の旅行に関する口コミ・価格比較を中心とするウェブサイト。旅行者による観光地の口コミ情報も掲載している。運営会社はTripAdvisor, Inc。